



この数字は2023年時点で、認知症やその疑いがあり、家族などが捜索願を出した行方不明者の人数です。70代以上が行方不明者の9割を占めており、男女比は男性約55・7%女性約44・3%でした。届け出のない方を含めると更に大きな数字になると思われま。このうち502人が亡くなりました。状態で見えられ、250人は行方不明のままです。死因の多くは溺死と低体温症である事が分かっています。



徘徊時の発見率

捜索願の届け出が受理されてから所在確認（死亡確認、その他を除く）までの期間は、受理当日が最も多く13,517人、次いで2日、3日以内の4,471人でした。4日を過ぎると所在確認数は急減します。行方不明者の発見に至るまでの時間は、9時間が分かれました。しており、この時間を過ぎると発見率が大幅に減少しています。

さて、ここまでは徘徊に対して不安になるような情報でしたが、その不安を取り除くために、徘徊のメカニズムや徘徊行動に対する対処方法についてご紹介していきます。

なぜ徘徊行動が起るのか

徘徊は認知症の行動・心理症状の一つで、認知症の方に必ず現れる症状ではありません。徘徊は本人にとりて目的のある外出です。多くの場合、何かを探しているのを探しているはずのものが見つからず、見つかるまで探してしまっている事があります。また、途中で何を探しているのかを忘れてしま、ただ歩き続けてしまっているという場合もあります。例えば、今いる場所が自分の家ではないと感じ、落ち着かず外へ出てしま、本当の家を探し、出かけてしまったり、仕事をしているかと思、職場を探して出かけたたりするケースが

あります。認知症では、疲れるという感覚も鈍くなるため、夜通し歩き続けて遠くまで行ってしまふという事も起こります。本人にとりては自然な欲求であり、これを無理やり止めることは困難です。

やってはいけない対策の例

①外に出られないように外鍵をつけ、内側から開かないようにする。
本人を不安にさせ、暴言や暴力につながる可能性があります。また、ドアが塞がれたことにより、窓から飛び降りようとしてケガをすることもあります。
※上層階の窓の開閉幅を狭くするのは安全のため必要措置とされる場合があります。

②外履きの靴を隠す
同居の介護者への不信感を募らせ、不安を強めてしまいます。靴が無ければ、素足で出かけてしまう可能性もあります。

③命令口調や威圧的な態度で外出を阻止する。
高圧的な強い言葉や力づくで外出行動を止めようとすると、かえって高齢者を不安にさせ、逃げ出そうとします。

在宅介護の現場では家族のことを思い、これらの対策をやってしまうがちですが、受け側からすると虐待になってしまいます。

効果的な対策の例

【対策用品の活用】

- ①本人の名前・住所・連絡先などの情報をシールやQRコードにして衣服や持ち物などに付けておく。当社のお勧めは下記の商品。
- ②靴や靴にGPSを使った徘徊探知機を忍ばせて、日頃使ってもらうようにして備える。
- ③携帯電話の位置情報サービスを利用して居場所を特定出来るようにしておく。
- ④名前や住所を書いた紙をよく使うバックや着衣のポケットの中に入れておく。



品名：救急QR 価格：999円（税込）

⑤家の出入り口にセンサーを設置して、外出が直ぐ分かるようにしておく。

【周辺環境の整備】

- ①一緒に近隣外出を繰り返して、出かける時間帯や歩き回るルートを把握しておく。
- ②よく立ち寄りしている場所やなじみの店、近所のコンビニ、公園、駅などを把握しておく。
- ③万一、徘徊して行方不明になった場合に備え、当日の服装等を覚えておく。

【行政・地区サービスの活用】

お住いの地域に「高齢者の見守り・SOSネットワーク」等の組織があれば、市区町村、地域包括支援センター、ケアマネジャー等を通じて緊急時に頼れるように事前登録や情報伝達の手順・内容を把握しておきましょう。認知症による行方不明者に対するネットワーク構築の重要性は年々高まっています。が、都道府県、市区町村により取り組み実績に濃淡があり、消費者庁が主導する「見守りネットワーク」は全国1,741自治体のうち524自治体にとどまっています。



こちらは皆様ご存じ「除夜の鐘」の回数です。なせ108回なのかは諸説ありますが、人間の悩みの数が108あり、鐘を1つ撞くごとに悩みを一つずつ消えていくことから、全ての悩みを祓うために108回撞いている、というものが一般的です。108に関連するものは他にもあり、「数珠の珠の数」「硬式野球ボールの縫い目の数」「ゴルフのホールのカップの直径」「太陽と地球の距離は、太陽の直径の約108倍」「地球と月の距離も、月の直径の約108倍」等々、意外と多くの場面に登場する数字なのです。また、その由来には興味を持つことも楽しいことですが、些細な事に興味を持ちたいこともありません。認知症予防の役にたつことも興味深い毎日が始まります。健やかに新年をお迎えください。

